

SHIEN アカデミー Press

Vol.13 SHIEN学が様々な分野で広がっています

INDEX

- ・ 代表理事からのメッセージ SHIEN学の最小単位は「個」でなくて「対」……P1
- ・ SHIEN勉強会「カタリバ」の今までとこれから 小林 三輝也(SHIEN学アドバイザー)……P2～P3
- ・ SHIEN学と私の出会い(シリーズ 1) 初代牧之原市長 西原 茂樹 氏……P4～P5
- ・ SHIEN学で広がるすてきな世界 佐藤 芙美(SHIEN学アドバイザー)……P6
- ・ 往復書簡 渡辺 美智留(SHIEN学アドバイザー)・櫻井 田絵子(SHIEN学マスター)……P7～P8
- ・ SHIENアカデミー活動報告(長崎 島原にて「SHIEN学を学ぶ、深める1day」) 伊藤めぐ(SHIEN学マスター)……P9
- ・ 東京工業大学リベラルアーツ授業(東京)「SHIENマネジメント」とその先の近代;本質に生きる…
「シナジー社会論」のまとめ;シナジーのコアとなる価値と意味…」……P10
- ・ 今後の予定(3つのコースと1日セミナーと天分発見ワークショップ)……P11

SHIEN学の最小単位は 「個」でなくて、「対」

SHIENアカデミー代表理事 たておか やすを

上司と部下の間に問題が起こったとします。上司は部下がどうして思ったように動かないのか、できないのか。部下は、上司はどうして自分をもっと認めてくれないのだろうかという具合です。上司は部下を上司の思ったように変えたいし、部下もしかりです。この場合SHIEN学の論理構造では、どのように考えるのでしょうか。

まず、会社が良くなる、社会的な価値をよりよく発揮し、社会から求められ顧客から共感をうけるという集合の中に会社があり、上司と部下がいるわけですね。上司が自身を高めて、優れたリーダーになれば、あるいはその逆の部下が優れた部下になれば、この問題は解決すると一般に考えるかもしれませんが、SHIEN学ではそのように考えません。上司と部下の異なった部分は互いに触れず、上司と部下の重なりはどこか、新に創れる重なりはないか、その重なり部分で互いにしてあげる、してもらうことをしていくのです。部下は勤務を自由にして欲しいがっている、上司はそれをしてあげる、部下は新しく上司にきた仕事で、上司はここが困るにちがいないと解ることをしてあげる。このように重なり部分だけに注目し、力を引き出しあうのです。

これは、SHIEN学で問題を解くときのあり方です。上司と部下だけの問題だけではありません。社会的価値と経済的価値をどうやって両立するのか。目先

の利益と長期的な利益をどのように実現するのか、異なる政党間で日本をよくするにはどうするのか、全てにSHIEN学の論理構造は使えるわけです。

個として自分を捉えるのではなく、異なるもの、対として捉え、その重なり、間こそが互いに扱う対象であり、それこそが実体であるとSHIEN学は考えているのです。したがって今後このような論理のあり方を開発していくことが大事であり、SHIEN学マスター、マスター候補生にこのあたりのことを大いに期待したいと思います。



Photo by Yasuo

SHIEN勉強会「カタリバ」の今までとこれから

SHIEN学アドバイザー 小林 三輝也



SHIEN勉強会「カタリバ」はSHIENマスター・アドバイザー・アドバイザー候補生がSHIEN学への思い、SHIEN活動を通して感じたことをお互いに共有しあい、お互いにSHIENしあう場、温かさを創造する場として2017年5月より活動を開始しました。

今年の5月で「カタリバ」は1周年を迎え、「カタリバ」で語られたSHIEN学への皆様の思いを振り返ると共に、これからのSHIEN学について思いを巡らせてみたいと思います。

SHIEN勉強会「カタリバ」の1回目のテーマは「企業経営とSHIEN学」でした。その思いは「環境が変わっている中で、企業経営が変わらなければ企業は衰退する」との危機意識から夢と情熱と執念を語って頂きました。お互いが支え合う経営を目指し、全体から部分をみれる社員を増やしたいとの思いがとてもSHIEN的でした。

舘岡先生からは「価値創造よりも価値創造できる組織の創造が大切。新しい時代の経営プロセスが必要ですが社長自ら新しいマネジメントを学ぶのが素晴らしい」とのフィードバックを頂きました。SHIENをベースにした経営の実践は経営の未来を感じさせるものでした。

2回目は「日本古来の神道からSHIEN学を深める」というテーマで語って頂きました。「日本人には、脈々と受け継がれている、想いを大切にすることを、これからも継承できるように自分の出来る形で伝えて参ります」とのメッセージはSHIEN学で大切にしているものと相通じるものが多いと思います。

日本人のこころ、祖先を大切に、親を敬い、子供を愛する、そんな当たり前の幸せが、今、もしできないのであれば、これこそ忙しい＝こころをなくして人として目的を失っている状態だと感じました。SHIEN学は、まさに人々に「人生の目的」を問

いかける学問のような気がしてきました。

3回目は「SHIENと業績と幸福感」について語って頂きました。企業の経営と社員の幸福感を調査した結果、MI(マス・アイデンティティ)という概念が重要だと語られました。MIとは目的・ビジョンの達成にむけて社員の強み・天分が活かされた時に組織に信頼感が生まれ、業績が良くなると共に社員の自己効力感と幸福度が増す状態とのことです。

働く人も幸せになり経営者が幸せになることが自然な経営マネジメントだと思いましたが、なぜそうならないかについて非常に疑問に思いました。利他性は生物学的にも血縁関係を中心に生きものとして本能的に持っているもので、その本能的な利他性を生かす経営が自然なのではないのでしょうか。なぜ、その自然な経営が出来ないかに、人間が持っている本質的な問題を感じました。

4回目は「SHIENと販売」と題して、自らのアプローチをリザパラ・プロパラ・コズパラの販売として語られました。リザパラ満載の店長研修を自らの天分により多くの仲間にも助けられて乗り越え、自分の生き方を見出し、リザパラ販売からプロパラ販売へ進化していく未来が見えて来たように思えました。サンタクロースとスタイリストの販売アプローチがその後、どうなったか楽しみにしています。

5回目は「SHIENとリーダーシップ」と題して私が自らの半生を振り返って語りました。参加された皆様より温かいフィードバックを頂き、とても居心地の良い勉強会でした。皆さんのお話を改めて伺いして、経営、そして生きる上で一番大切なことがひらめきました。それは、語り合い、学ぶことです。このカタリバが、日本の経営、会社の経営、学校の経営、そして家庭の経営に役に立つ日がきっと来る！のではないかと思います。

次ページへ続く▼

▼前ページより続く

6回目以降、「SHIENカフェを語ろう」、「SHIEN学を教育現場に届ける」、「行政（牧之原市）のSHIEN学の取り組み」、「3rd Place（人と自然の会う場所）」、「私の見えない世界観」、「日常の中のSHIENが起こる時」と題して語り合いました。今回は紙面の都合で書き切れないので、次回以降、報告させていただきます。

このSHIEN勉強会カタリバの目指すところは「SHIENという共通の価値観・生き方をお互いに学び、そして実践することにより自然と幸せになる社会を実現する」ことです。この勉強会に新しいメンバーも増えつつあり、更にSHIENの学びの輪が広がるよう継続していきたいと思いますので、みなさまよろしくお願い致します。



SHIEN学と私の出会い (シリーズ1)

初代牧之原市長 西原 茂樹



相良町議会に

私は1989年11月から相良町議会議員として、いわゆる政治家の道に入っていました。なぜ、議員になったのか？それにはこんな理由がありました。

1979年妻と結婚しました。妻は金沢市出身ですが、父親に「どこの馬の骨ともわからないやつに長女をやるわけに行かない！」と言われ、それならば仲人を確かな方に頼めばいいだろうと、私の地元相良町出身の県議会議員をお願いをしました。いわゆる結婚式の時だけの仲人です。

ところが結婚したら、その方の仲人子として、選挙の手伝いを必然的にするようになりました。仕事上の関係もあり、議員の紹介で自民党に入党し、今現在も自民党員です。その相良町では、自民党青年部員として活動しました。仲人の県議が県議会議員長の時に、静岡県に空港を作ることになり「相良沖への海上空港案」を作って提出しました。これが現在の富士山静岡空港とのご縁の始まりです。

自民党相良町支部青年部長もやりました。青年部長を終わり水処理会社の静岡営業所長として順風満帆であった1989年暮れ、参議院選挙で選挙違反事件があり、相良町議会議員7人が逮捕されて失職しました。その補欠選挙に当たって、私の地元から選挙告示直前の1週間前に「西原君に町議会議員補欠選挙に出てほしい」と依頼がきました。選挙違反の後で、それなりの方はどなたも硬く辞退し、最後の最後で35歳の私に要請の順番が回ってきました。

「補欠選挙だから選挙にはならない。月3日くらい休めれば何とかなる」と言われましたが、後で大間違いだったと知ることになります。結果として、補欠選挙は8人が出馬し、私がトップでした。理由は若さだったと思います。

県議会議員選挙の激戦から学んだこと

翌年1990年になると、長い間県議会議員をやっ

ていた仲人の県議が引退することになりました。この経緯は、少し詳細に紹介します。

その年の5月ころから、来年4月の県議会議員選挙をどうするかの話合いが相良町議の間で始まりました。県議会議員は選挙区があって、当時は榛原郡8町（御前崎町、相良町、榛原町、吉田町、金谷町、川根町、中川根町、本川根町）で3人の県議会議員が選出されていました。

相良町と御前崎町で一人、榛原町と吉田町で一人、北部4町で一人と、だいたい区割りされていました。今回は、そのうちの相良町と御前崎町の代表である県議の跡目をどうするかということです。議員間で話をして、いったん御前崎町側にも打診しましたが、相良町で次期県議を出すということになりました。すでに出たいと意思表示している元相良町議長がいました。それではだめだと言う現職県議派（町議の半分くらいも）は、私を含めてある若手町議を押ししました。

その若手町議は8月になって「私は圧力を受けて候補者を降る！西原君が変わりに旗を持って候補者になって欲しい！」と頼みにきました。最終的には、自民党相良町支部の総務会で決まるから私はその決定に従おうとした上で候補者となりました。9月16日に総務会代表の選定委員会があり、最終的に委員19名での無記名投票が行われました。総務会は19日に開催されるので、票はそのまま3日間は静岡銀行相良支店の金庫に置かれました。19日当日19名が開票して「一票でも多ければ代表者の総意」として決定する旨で開票して総務会に望みました。私も発表を待ちました。

「西原茂樹君を県議会議員候補者として県連に推薦します！」と当時の総務会長が宣言しました。私は信じられませんでした。結果を受けて「ありがとうございました。全力で頑張ります！」と発言しまし

[次ページへ続く▼](#)

SHIEN学と私の出会い

(シリーズ1)

▼前ページより続く

たが、もう一方の元町議会議長は不服として数人の同僚議員と席を立てて出て行きました。

そこからでした。信じられないことが次々と起こりました。総務会は54名でしたが、翌日から当時の町長と候補者が54名の総務委員の自宅を訪問して

「西原は総務会の推薦をもらったが、個人として私（元議長）を推薦をしてほしい！」と署名捺印を迫って、数人を除いて推薦状を取ってしまいました。

自民党県連には、かくして支部推薦は西原、ほぼ全員の総務個人個人から元議長と二つの推薦依頼が届くことになりました。

私は納得がいきません。ルール違反だ！しかし、相手方の締め付けは強烈でした。最初から応援してくれていた地元の自治会役員も「将来があるからやめたほうが良い！」と進めるようになりました。12月24日、最後の地元自治会長さん方との会議で「西原茂樹は今回の出馬を断念する」と言う方向性を言い渡されました。私は「やむを得ない！」と受け入れて選挙事務所に戻ると30名ほどの熱烈な支持者の若者たちが待っていました。

彼らは口々に「とんでもない！屈すべきではない！」と大反対された。

しかし、すでに私の出馬辞退は先方に伝わっていて、翌日の25日には再度自民党総務会が開催されて、私の推薦の撤回と元議長の推薦が決まる段取りができていました。

そこで一計が講じられました。それは、私が「推薦辞退を受け入れる条件として、相良支部長である県議会議員（私の仲人）が責任をとって辞任することである。人生をかけた戦いで出馬辞退を決断するのだからそのくらいの責任は取るべきだ」という意見です。翌日の総務会では支部長は「辞めない！」と言い、「責任が取れないなら、出馬辞退もしない！」と私も不退転の意思表示をして調整は決裂、紆余曲折を経ながら、激しい選挙戦に突入していきました。後にも先にもあれだけ激しかった選挙はないと思っています。

4月私は当選しました。私が1万3356票獲得し、3人の榛原郡選挙区で3番目に当選しました。

落選した元相良町議長とは11票差でした。地元相良町で、私は6000票で相手は9000票と3000票も負けていましたが、他の7町の票の積み上げで当選できました。

その後当選したお礼に回ると、いたるところでこんなことを言われました。「我が家の3票と、隣の家の3票、嫁さんの出身はあちらだったが説得して西原さんに入れさせた。6票なかったら負けていたよ！」「若い衆が西原さんを応援していた。私たちは、知らなかったが入れた！私たちが当選させたんだよ！」それぞれが、我がこととして「私が西原を当選させた！」としていることに感動しました。

私は、それ以降6回選挙をしましたが、以降ほとんどトップ当選でした。つまり、西原を当選させたのは私だ。だから次回も彼が出る限り当選させる！（もちろん評価が悪ければだめだが）…そんな気持ちがある私への支援として繋がってきたということです。

私はその後、牧之原市長になった時に「人は誰でも主役になれる」「市民が主役になってやる気になってまちづくりに取り組んでもらう」ということを実践しますが、その原点として気づきを学んだのが、この県議会議員1回目の選挙でした。

私は、県議会議員4期を経て、合併で誕生した初代牧之原市長に就任しました。

今回は、SHIEN学との出会いについてお話をします。

SHIEN学では、「天分に出会って運ばれていく」ことを大切にしています。まさに、初代牧之原市長の体験は、SHIEN学を地で進んでいる好例だと思われます。また、SHIEN学は、「気づき」を「学習」より大切にします。まさに、深い気づきがその後の政治生活を左右していることがわかってと思います。（たておか やすを）

SHIEN学で広がるすてきな世界

SHIEN学アドバイザー 佐藤 芙美



こんにちは。今回SHIEN学アドバイザーになりました佐藤芙美です。

◆SHIEN学との出会い◆

それは6年前。だいきないとこの影響でいった服部みれいさんのブログで、シェアハウスの見学にいったのがきっかけでした。そのシェアハウスは服部みれいさんの事務所スタッフ・ささたくやさんが関わっていたおうちで、見学にいくと壁に紙が貼ってました。これなんですか、と聞くと、SHIEN学だよ。と教えてくれました。

これを読まれている方はSHIEN相談会をされたことはありますか。SHIEN学の世界観を体験できるこの相談会は、さいご紙に書いて宣言をするのですが、その宣言の紙を、シェアハウスでSHIEN相談会をやったあとに壁にはっていました。みんなで応援・サポートするために。(すてき)

わたしはそこから「世界を変えるSHIEN学」を読み始め、SHIEN学に進んでゆきました。

いまでも同世代の女性とSHIEN学で会々と、みれいさん繋がりの方が多く、バックグラウンドが似て嬉しくなります。



◆SHIEN学に関わり続けている理由◆

それは”こちよい”からです！来るもの拒まず去る者追わずで(笑)、こんにちはー！と行った時はさいしょからみんなすでにやさしく、その後もやさしく見守ってくれるおかげで、マイペースに学び続けられました。

2014年に参加した青山ブックセンターの3カ月連続講座では、北海道・愛知・静岡など遠くからメンバーが集まり、天分ってそんなスゴイものじゃなく、わたしの天分は造ることなんだ！ 表現することなんだ！と気づいたり、(書くのもだいきなのでこの原稿かけてうれしいです。笑)

講座メンバーとバンドを組んでみたり。20代終わりごろになってはじめてバンドをやりました！

なんだか楽しそうー♪で行ったら、SHIEN学アドバイザー養成講座だったということもありました(笑)

◆SHIEN学のすきなところ◆

どうしたらいいの、と答えを探しまくるより、風に運ばれていくというSHIEN学の世界観がだいきです。

達成しようと頑張らなくてよくて、周りに頼って、信頼して。周りの天分も輝かせていくSHIEN学の世界観がだいきです。

今回SHIEN学アドバイザー資格を取得して、わたしは東京でも定期的にSHIEN相談会を開催していきたいです。それは6年前。「世界を変えるSHIEN学」を読んでしまったコレクティブハウジングという北欧の住まい方のひとつに、わたしはいま住んでいます。

SHIEN学がおしえてくれたこちよい暮らしです。はたけやハーブが見えるこのコレクティブハウジングのシェアラウンジで、またSHIENなみなさんとお会いたいです。



SHIEN学マスター
櫻井 田絵子

SHIENをめぐる往復書簡



SHIEN学アドバイザー
渡辺 美智留

SHIEN学を実践する仲間には素敵な感性をもった人が多く、共に実践する中で、自分とは違う視点や、視界が広がるような経験をたくさんしてきました。その中でもSHIEN学マスターの伊藤めぐさんが友人同士をつないでくれる時の一言には思わず惹きこまれた体験があります。「札幌の近くに、タエコさんと話し方が似てる人がいるの」と。それがミチルさんとの出逢いでした。胸騒ぎと、不思議な感覚に包まれました。お会いして話してみると、初めてなのに懐かしく感じたのです。それ以来友人関係となりました。そんなSHIEN学アドバイザーのミチルさんに、往復書簡をお願いしたのは、文章で、SHIENと共にある生き方・暮らしを一緒に考え、感じてみたいと思ったからです。文章の上にミチルさんの声を乗せながら。シリーズで往復書簡を進めていきたいと思っています。この往復書簡がSHIEN学を実践している仲間にも些少もの気づきや癒しをもたらせたら本当に幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

今回のテーマとして『パラダイムって何だろう』を取り上げてみたいと思います。

SHIEN学は、『重なりのないところに重なりを創る』ことが出発点であると舘岡先生から教わっています。してあげる時に、同時にしてもらうことが交換されているということです。そのことへの気づきを日常わたしたちは大切に受け取っているのではないのでしょうか。

そこで今回は、SHIEN学が提唱している、3つの「パラダイム」から見た、ものの見方や枠組みを考えてみたいと思います。その3つのパラダイムとは、いわずと知れた、

- 1 リザルトパラダイム（リザパラ）
- 2 プロセスパラダイム（プロパラ）
- 3 コーズパラダイム（コズパラ）です。

タエコ：今回は、そもそも、「パラダイム」って何だろうという基本のところと一緒に語り（書き）ながら気づきを深めていければと思います。

ミチル：往復書簡という言葉を見て、今のようメールや携帯電話、そもそも電話さえもなかった時代、手紙で二人の或いは複数の人たちの考えや想いをやり取りしていたのですよね。しかもその頃は郵便事情だってそれなりでしょうから、書簡が届くまで、そして返信がくるまでに、一体どれくらいの時間が掛かったのか。現代のスピード感で考えると、ちょっと想像がつかないというか…でも私は、それ

が案外悪いことでもないような気がします。不便ではあるけれど、悪いことではないなと。もちろん至急の用向きは困りますが、じっくり考えるにはいいかもしれないですね。

タエコ：そうですね。最初に「パラダイム」を取り上げさせてもらったのは、SHIEN学の大事なだいな柱の3つのパラダイム（paradigm）がありますね。そこで使われる言葉だからです。SHIEN学では、「教える」形ではなく、「自分の気づき」で学びとることに価値を見いだしていると思います。ミチルさんは、パラダイムというとどんな風に感じていましたか。辞書では「ある時代や分野において支配的規範となる『物の見方や捉え方』のこと」と、訳されています。私は、海外旅行から帰ってきた空港で、そこから見る日本に、逆カルチャー・ショックを覚えるときに、パラダイムの違いに気づくことがありました。子供の頃は目の前の風景が当たり前で全世界だと感じていたし、外を知らないと自分の当たり前は気づきませんよね。

ミチル：確かに「無自覚」ではありますよね。「まるで生まれつき持っていたかのように刷り込まれた」もの、つまり、元々私たちの本質として備わっているものではないと思います。ただ、人は必ず何らかの集団に属していて、そこにはその集団を支配している価値観や規準（集団意識と言ってもいいかもしれませんね）があって、それはほぼ無意識のレベルにまで落とし込まれている、のではないのでしょうか。だから私たちは、自分が常識だと思っていることや自分が従っている規準が本当に「私のもの」なのかどうかなんて、疑ったりしないんですよね。

次ページへ続く▼

SHIENをめぐる往復書簡

▼前ページよりつづく

タエコ：面白い例を、宇宙飛行士の山崎直子さんが書いていました。彼女は実際に宇宙に飛び出す前に11年にもわたるトレーニングを受け、宇宙を特別な場所だと思っていたのだけれど、宇宙で生活してみても一番意外だったのが、非日常と思っていた宇宙が日常となったこと。そして地球に戻ると今度は重力の大きさに驚き、頭に漬物石が乗っかっているようだったと表現していました。そして、外に降り立った時のそよ風の心地よさ、草や木の香り、土の感触、目の前のありきたりの景色や香りが何より愛おしく感じられたとも。彼女のようなスケールの大きな時空の変化を体験せずとも、パラダイムとは私たち皆がそれぞれにすでにもっていて無自覚なものなんでしょうね。

ミチル：山崎直子さんの表現の「そよ風の心地よさ、草や木の香り、土の感触が何より愛おしく感じられた」……これはまさに本質として備わっているものだと思います。宇宙空間から地上に戻るという劇的な状況の変化の中で、この感覚が際立ったということはあるかもしれませんが、これは人が生まれつき持っている本質ですよ。本当は自然に足を根ざしたものに従って、こういうものを物差しに生きていくことができればいいと思うのですが、なかなかそうはいきませんよね。人間はいろんな意味で社会的動物ですから（笑）。社会のパラダイムの枠組みから外れるということは、集団に帰属する条件を満たさなくなる、それはたぶん、ものすごく不安なことなんだろうと思いますよ。でも、そう考えること自体、実は今の社会のパラダイムに呑みこまれてしまっているのですけどね（笑）。SHIEN学の3つのパラダイムは、飲み込まれている社会のパラダイムから不安なく解放してくれるものではないかなあと思います。

タエコ：そうですね。自然にふれたときのように人間に「本質的に備わっているもの」と、「社会的に帰属するための常識」としてきたものがあるのですね。でも、「外・他」を知って気づくだけなのでしょう。海外に行って日本人である自分の無自覚な部分に気付かされるように、他を知って、無意識を意識化することが出来る、としたら、他を知らないと気づけないのかという疑問が残ります。他を知らなくても、こういうことが当たり前の世の中になっただけいいな、という「想像（力）」が立ち上がってくることがプロセスパラダイムの社会通念、社会常識、なのだと理解出来るそうです。SHIEN学は自分では気づけない3つのパラダイムを教えてくれていると思います。これらのパラダイムに合わせる事で、自分の人との関わりがわかってくるように思えてき

ました。SHIEN相談会のような、安心安全の場が実現される場では、自分の抱えている閉塞感などの「制限」が自分で作り出しているパラダイムに基づいているということに気づくキッカケを自分以外から与えられ、そして自分も、自分以外の人に与えることができることは素敵なことですね。

ミチル：想像力を働かせると、昔はコースパラダイムやプロセスパラダイムだったのではないかと思います。それが、支配や覇権のようなあり方ができて、リザルトパラダイムになってきたと以前に舘岡先生と話したことがありました。これはすごく大切なことだと思います。

タエコ：わたしもそう思います。

ミチル：自分の考えを整理していく過程で浮かんできたこと、気づいたこと等々…メモ書きさせてください。

- ・私たちは、無意識のうちに（場合によっては意識的に）自分が属する集団の価値観や判断・行動規準に依って、物事を捉え、思考し、行動している。

- ・自発的に従っているというよりは、無自覚であり、むしろパラダイムによって、思考や行動を制御されているといえるかもしれない。

- ・そのこと自体に、またはその結果に違和感を感じたとして（たぶん感じる人は少なくない）、どうなるか。その枠組みを外れることは、大なり小なり集団に帰属できなくなる可能性を意味し、それはとてもリスクだと感じるのではないかな。

- ・視点を変えると、属する集団のパラダイムに従うことは、安心感やある意味での安全を得ることともいえる。（これは結構重要なポイントかも）

- ・SHIEN学の3つのパラダイムは、こうしたリスクを犯さずに、本質に返してくれるところがすごいのではないかなと思うのです。

- ・縄文時代は、おそらくコースパラダイム的な社会だったのではないかと（これは私の勝手な妄想…笑）。その後「所有」という概念が生まれて、リザルトパラダイムに進んでいったのかもしれないと舘岡先生と話したことがあります。

タエコ：今、改めて知りたくなってきたのは、3つのパラダイムの関係です。今回は、「パラダイムって何？」からスタートしましたが、次回は3つのパラダイムの関係や違いを、書き（話し）たいです。

ミチル：「パラダイムって何？」という導入編から入りましたが、深いテーマですね。その先へ進んでいくと、思いがけない所に辿り着くかもしれません。そこからインスピレーションを得られたら嬉しいです。

（次号につづく）

長崎 島原にて 「SHIEN学を学ぶ、深める 1 day」

SHIEN学マスター 伊藤 めぐ



2018年3月21日春分の日。南の地、九州長崎・島原にて「SHIEN学を学ぶ、深める1day」が開催されました(〇´▽`)♪。というか ^^: 開催されていました~笑。この日は私、伊藤めぐと、SHIEN学アドバイザーの高木和歌さんの初のSHIEN学セミナー (〇´▽`)♪。場所は、素敵な素敵な和歌さんのスペース Soul Blossomにて行われました。

そして大阪からはSHIEN学アドバイザーの赤澤輝美さんこと、てるみんも駆けつけてくれて島原ではSHIEN学アドバイザー候補生の庄崎堅剛さんこと庄ちゃんがサポートしてくれ、とても温かな場でSHIEN学を深めることができました(〇´▽`)♪。和歌さんの放つSHIEN学はとても優しく温かく本来の自分のままで重なることができました。



そして、初めて会う方ばかりなのに私を大歓迎していただき、本当に嬉しかったです。和歌さん~めぐさんが来るよ~めぐさんだよ~~~バ(´▽`)♪とティーアップしていただき、ありがとうございました^^//。照れくさくて嬉しくて歓迎され褒められ褒め合った^^///。初めてお逢いする方ばかりなのに初めてじゃない^^// 泣いて笑って食べて飲んで重なって家族になった(\*´▽`)♪♪♪。重なれば重なるほど家族が増えて。重なれば重なるほど、その家族と共に温かな世界が増えていく。

だから私たちが感じたこの温かさを世界中の人に伝えていきたい。正しさや比較やジャッチではない、もっと奥にある大切な本質を感じ寄り添い合う世界にしていきたいと心から感じた日でした。和歌&めぐ。

そして! いよいよ長崎島原にSHIENアカデミー長崎が 立ち上がります(〇´▽`)♪。和歌さんが作り出す温かな場で地球家族がどんどん増えますように(〇´▽`)♪。そしてそして、このSHIEN学の活動を私たちと一緒しませんか? (*´▽`)♪♪♪



アカデミー活動のレポート

From Tokyo Institute of Technology

大学間に広がるSHIEN学

「“SHIENマネジメント”とその先の
近代;本質に生きる…」
「“シナジー社会論”のまとめ;シナジ
ーのコアとなる価値と意味…」開催。



5月30日、6月6日に東京工業大学リベラルアーツの授業でSHIEN学の講義が行われました。SHIEN学的に参加対話型の授業が展開され、熱く、温かい学びが繰り広げられ、学生達は新しい価値観に触れ驚き、大反響となりました。参加者は、修士一年、二年の約130名の学生で、抽選となる人気授業でした。プロセスパラダイムの世の中で多文化共生を実現させるためにどのようにわたしたちが変わっていくのかを心と身体で理解実践する目的で行われました。

◆◆◆ 講義後の、主な感想の要旨は以下のようでした ◆◆◆

- してもらう能力の重要性に気づいたり、他人の意見をもっと取り入れようと思ったようです。
- 一人で問題を解決することは、自立してよいように思っていたが、人の力を引き出すことはもっと素晴らしいことと感じたようです。
- 今まで人から助けられると、悪いなと思っていたが、人の力を引きだしていると思えば、そう思わなくてもよいのだと思ったようです。
- 今まで自分を高め、自分の力で生きていくのが、自立していくことだと考えていた学生さんたちが、自分のできないことは人にたのもうとか、人の力を引き出そうとか、頼まれたら、積極的に助けたいという考えがでてきたようです。
- 「してもらう能力」という言葉が印象的だったようです。

若い人々にSHIEN学がどんどん広まってくと、いいですね

SHIEN学「SHIEN学を深く学ぶ3つのコース」・セミナーのご案内

SHIEN学をさまざまなスタイルで学び、活躍していただくために、これまでの「ファシリテーション(アドバイザー・マスター)コース」に加え、SHIEN学「SHIEN学を深く学ぶ3つのコース」として「プラクティショナーコース」「シンポジウムコース」を新設しました。各コースは次のような内容です。

コース名	内容	コース構成	開催日
ファシリテーションコース	有償でSHIEN学の講演、ワークショップを実施したい人向け。SHIEN学アドバイザー、SHIEN学マスターの資格取得ができます。	基礎編、応用編、実践編	年9回予定 (北海道/関東 関西/九州)
プラクティショナーコース	SHIEN学を自分の生活に取り入れて実践し、生活の質を上げたい人向け。有償講演等はできませんが、SHIEN学をより深めたい方に最適なコースです。	基礎編、応用編	年9回予定 (北海道/関東 関西/九州)
シンポジウムコース	二人以上のコース修了者で有償・無償のSHIEN学に関わるイベント開催が可能です。イベント実施にあたってのシナリオをアカデミーよりご提供します。	基礎編、応用編、実践編	年9回予定 (北海道/関東 関西/九州)

●2018年度の開催日程

日程	地域	開催講座	会場	申込
7月16日(月/祝)	福岡	新時代を開くSHIEN学とは～21世紀に私たちが気づくこと～in 福岡	西南学院大学コミュニティーセンター2階プロジェクトルーム 住所* 早良区西新6丁目2の92 前売り 3,000円 / 当日 3,500円	終了しました
9月15日(水/祝)	東京	アドバイザー/マスター プラクティショナー シンポジウム	会場◇ S/S/A/W (カフェ・レストラン) 住所◇ 東京都品川区荏原 5-15-15 西小山サマリヤマンション 1F	受付中
10月27日(土)	長崎/島原	アドバイザー プラクティショナー シンポジウム	Soul Blossom 長崎県島原市弁天町1-7055-1)	受付中
10月28日(日)	長崎/島原	天分発見ワークショップ2	Soul Blossom 長崎県島原市弁天町1-7055-1)	受付中
11月17日(土)	札幌	アドバイザー プラクティショナー シンポジウム	札幌 Café tone 札幌市北区北23条西10丁目1-6	受付中
11月18日(日)	札幌	第32回 SHIEN学 1日セミナー in 札幌	札幌 Café tone 札幌市北区北23条西10丁目1-6 前売り 7,700円 / 当日 8,500円	受付中
1月26日(土)	関東方面	アドバイザー/マスター プラクティショナー シンポジウム	未定	受付中

「天分発見ワークショップ」2回目の開催も九州長崎の地にて…

SHIEN学の主要コンセプトのひとつ「天分」に気づくワークショップです。

伝説の「天分発見ワークショップ」次回開催は、10/28(日)@長崎/島原
お問い合わせ、ご参加ご希望の方は、メールでお知らせください。shien.academy.1@gmail.com

一般社団法人SHIENアカデミー静岡

お問い合わせ/お申し込み shien.academy.1@gmail.com

<http://www.shien-academy.jp>

<https://www.facebook.com/shiengaku/>